

(様式1)

自己評価表

愛媛県立三崎高等学校
学校番号(37)

教育方針	生徒一人一人の個性を尊重し、ゆとりある伸び伸びとした学習活動を推進することにより、たくましく生きる力を育成する。	重点目標	1 進路決定100%に向け、一人一人に応じた指導を徹底する。 2 部活動と学校行事を充実させ、豊かな人間性を育てる。 3 地域に根ざした学校づくりとボランティア活動を積極的に推進する。 4 基本的な生活習慣を確立し、高い規範意識を育てる。 5 人権意識を高め、いじめや差別のない社会の実現を目指す。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	重点目標達成のための実践	昨年度よりさらに地域と連携した教育活動を重視して、本校の重点目標の達成を目指す。実現のために各課・各科で協力して生徒が主体的に取り組む態度を身に付けさせ、実践に励む。	B	総合的な探究の時間や未咲輝学などを通して地域の方との連携を密にして協力体制を維持することができた。生徒の自主性を育むことに関して徹底が必要である。	・地域との連携を深めていく中で、地域人材データベースを作成しているが、活用の方法やシステムを構築していくことで生徒の自主性の育成につなげていきたい。
	業務改善を目指す円滑な組織運営	情報の共有化を図り、報告、連絡、相談の体制の充実を図ることで業務の精選に取り組む。ICT機器等を有効活用し、業務の効率化を目指す。	B	口頭での連絡や起案又は復命によって報告、連絡、相談について、ある程度達成できた。しかし、勤務をする中で負担なく報連相が達成できるシステムの構築ができていところまでは達成していない。	・現在活用している文書管理ファイルなどを活用した報告システムを検討しており、来年度開始の際には活用できるように準備していきたい。
	危機管理体制の充実	本校の危機管理マニュアル及び防災避難訓練の在り方を随時見直し、地域と連携した活動を行う。また、情報セキュリティに関して、生徒・教職員にセキュリティポリシーの啓発に努める。	A	危機管理マニュアル及び防災避難訓練の在り方については例年見直しを行っている。情報セキュリティに関しては教職員、生徒に対して、共にセキュリティポリシーの啓発に努めた。	・マニュアルの検討をしていく中で見直しをしていく必要性はある。時代の変化に合わせ、実情に適した内容とするのが望ましい。セキュリティポリシーに関しても同様である。
学習指導	家庭学習の充実	高い目的意識と主体的な家庭学習習慣を身に付けさせ、平均家庭学習時間150分以上を達成する。 A：150分以上 B：140分以上 C：120分以上 D：90分以上 E：90分未満	A	平均家庭学習時間は154分であり、目標を達成することができた。昨年度は158分。コロナ禍の中、オンラインでの学習機会も増えたことを前向きにとらえ、Teamsやスタディ・サブリ等の学習教材の使用について学校全体で共有を図った。	・より一層公営塾との連携を図り、定期考査に対する意識付けや動機付け、また進路への意識や進路実現への意欲の高揚を一層図っていきたい。また、家庭学習習慣が十分に身に付いていない生徒に対しては学習方法から指導していく必要があるため、粘り強く継続的に指導していきたい。
	教科指導の充実	積極的に研修を行うことで教員の指導力向上を図り、生徒の授業評価ポイント4.0以上を目指す。 A：4.0以上 B：3.8以上 C：3.6以上 D：3.4以上 E：3.4未満	A	TeamsやZoomを使用したオンライン授業実践研修会だけではなく焦点授業や相互授業参観などを通して、指導力向上を図ることができた。また、全校生徒に対し授業評価アンケートを実施して、今年度も全ての教員が4.0以上をクリアできた。	・引き続き、生徒からの評価をもとに授業内容を改善するとともに、ICT機器やスタディ・サブリを活用して分かりやすい授業を心掛けたい。さらに今後にはオンライン授業にも即座に対応できるように、研究を深めていきたい。
	教科指導の充実	漢検2級取得者5人、実用英検2級取得者5人、3種目1級合格者1名以上を目指す。 A：11人以上 B：9人以上 C：7人以上 D：5人以上 E：5人未満	A	漢検2級取得者2人、英検2級取得者8人、商業資格検定3種目1級取得者1人であり、のべ人数では目標を達成することができた。コロナ禍の影響で受検が見送られた検定もあった。今年度も「世界遺産検定」を受検した生徒がおり、合格者も輩出できた。	・意識付けや動機付けを継続させ、検定の合格に向けて目標を立てて計画的に勉強したり、勉強を続けていったりできるような力を身に付けさせたい。また、検定取得に向け公営塾とも連携を図っていきたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

生徒指導	生活指導の充実	身だしなみ指導を毎月1回実施し、毎回不合格者0人を目指す。	B	身だしなみの大きな崩れはないが、目標の達成には至っていない。	・普段から身だしなみを整えることについて意識させるよう、様々な機会を捉えて指導したい。
	交通安全指導の充実	毎月1回交通安全指導日を設け、通学路の交通安全指導を行う。ヘルメットの確実な着用を呼びかけ、自転車・原付通学バイク生の無事故・無違反を目指す。	A	自転車通学生、バイク通学生は安全走行を行い無事故・無違反で良好な通学状況であった。	・通学方法別集会やホームルーム活動、学校行事を通して交通安全意識を高めさせたい
	奉仕の精神を養う教育の充実	地域に貢献する奉仕活動を1回、校内の環境美化意識を高める奉仕活動を2回実施する。	B	新型コロナウイルス感染症予防対策により、地域での活動は実施できなかった。	・通常の清掃活動を通して奉仕の心を育むとともに、地域への奉仕活動にも取り組んでいきたい。
	主体性を育てる教育の充実	各クラスにおいて、各種専門委員を一人二役経験させる。	A	一人一役の専門委員を経験することができた。	・様々な委員会活動を経験することで視野を広げるとともに、人の役に立っていることを自覚させたい。
進路指導	キャリア教育の充実	社会人やキャリアコンサルタントによる講演会、企業説明会を年2回以上実施する。	B	新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、全体での講演が難しく、学年や学級により偏りが出てしまった。南予地域の企業による合同企業説明会を開催した。	・講演会開催や愛媛県内の企業と連携したキャリア形成の取組について系統的に進めていく。
	多様な進路希望に応じた指導の充実	進路情報を学期に1回以上発信し、進路に対する意識の向上を図る。	B	進路意識については、企業説明会、進路講演会、進路情報の掲示や配布、各授業、HR活動等を通して向上を図った。学年や学級によって有効性に差が生じた。	・学年や学級単位での効果分析や進路実現に対する意識の向上について、まだ不十分である。日々の学習や進学関係行事について、その内容・方法を検討し、改善する。
		進学、就職内定率100%を達成する。 A：100% B：95% C：90% D：85% E：85%未満	B	多様な進路希望への対応が困難な面がある。就職内定率については100%であるが、特に進学については、多様な進路選択について課題が残る。	・社会で求められている資質や能力が変化しているため、個別指導に加え、生徒自身が自ら考え、選択するような取組を行う。
人権教育	人権学習の充実	人権・同和教育ホームルーム活動の年3回実施や年1回以上の人権講演会を通して、人権意識の高揚を図る。	A	年3回以上の人権・同和教育HR活動そして講演会を実施できた。	・予算等について検討した上で講演会を学期ごとに実施したい。
		人権だよりを年6回以上発行し、人権委員会を中心とした生徒主体の啓発活動を充実させる。 A：6回以上 B：5回 C：4回 D：3回 E：3回未満	C	年4回の発行であった。生徒に身近な話題を提供し、人権について考えを深めさせることができた。挨拶運動は毎月行うことができた。	・来年度は、生徒主体の人権だよりを発行し、挨拶運動も継続させていきたい。
	情報モラル教育の充実	授業や講演会などを通して携帯電話やインターネットの適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てる。	A	全校集会で講演会を実施したり、授業の中でも適宜指導を行っている。	・今後も生徒にとって身近にあることなので指導を行ってきたい。
	異文化理解の充実	国際交流会等を通して異文化への関心を高め、異文化を尊重する態度を育てる。	A	トビタテ！留学JAPAN 7期生の3年生梶原に参加してもらい、2年生のコミ英Ⅱの授業とハワイの方をつないでオンライン学習を行った。	・本校の伝統となるように来年度も継続していきたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

現職教育	研修の充実	校内研修を年5回実施するとともに、校外研修の活用や研修報告を通して、資質向上を図る。	A	5回以上実施することができた。	・校外での研修を、校内で発表する場を来年は充実させていきたい。
		年5回以上の研究授業や公開授業時のアンケート・教員相互の授業参観等を通して、授業改善に役立てる。	B	研究授業については、5回以上実施することができたが、教員相互の授業参観は十分とは言えない。	・普段の授業でも、お互いの授業を参観できるようにしていきたい。
保健・安全管理	保健活動の充実	毎月1回、生徒の健康課題に沿った「保健だより」を発行する。また、生徒保健委員会活動を充実させ、健康に関する情報発信と意識向上に努める。	A	毎月1回保健だより発行の際に、生徒保健委員がSHRで発表を行い、感染症対策の強化を図る中で、マチコミアプリを活用した健康観察を定着させることができた。また、効果的な掲示物の作成等を工夫・継続できた。	・テーマを決めて生徒が主体的に活動する保健委員会活動の中で、目標が達成できるような実践方法を考えていきたい。また、引き続き、効果的な掲示物等の作成を工夫・継続したい。
		生徒に対し、専門家による健康に関する講話を開催する。	B	外部講師による講演は実施できなかったが、家庭科教諭と連携し、文化祭前の衛生指導を実施した。また、寄宿舎生が町保健センターより食育指導と弁当の配付を受けた。	・健康課題に即した講話や研修などを取り入れ、生徒の健康意識の向上に努めたい。
	衛生管理の徹底	毎月1回衛生委員会を開催する。	A	毎月1回衛生委員会を実施できた。また職場巡視により職場環境の改善等に対応できた。	・教職員健康管理医と連携し、感染症対応や職場巡視等を的確に行っていきたい。
		教職員に対し、教職員健康管理医による講話及び研修を年1回以上開催する。	A	9月に教職員健康管理医による「新型コロナウイルス感染症について」の講話を実施した。	・教職員のメンタルヘルスを含めた健康相談の充実と講話等を実施し、心身の健康管理に努めたい。
	安全管理の徹底	毎学期1回安全点検を実施する。	A	学期に1回安全点検を実施し、速やかな事後措置により安全管理が徹底できた。	・日常点検も重視し、迅速な事後措置を徹底したい。
図書活動	図書活動の充実	朝の読書の質の向上を目指すとともに、ブックトークなどを通じて読書に対する意識を向上させる。	B	意識を多少向上させることはできたと感じられる生徒もいたが、多くの生徒の意識を向上させることはできなかった。	・朝読書の質を向上させるため、ブックトークの内容を改善し、より多くの生徒に読書の意識を浸透させるものにしていきたい。
		図書委員会で「図書館だより」を年間3回以上発行し、図書館活動を生徒・保護者に啓発する。	A	図書館だよりを3回以上発行することができた。また、生徒や保護者に啓発することができた。	・来年度も引き続き図書館だよりを発行し、生徒・保護者に啓発活動をしていきたい。
		図書館来館者数延べ250人、年間一人あたりの貸出数3冊以上を目指す。 A：250人以上 B：200人以上 C：150人以上 D：100人以上	C	貸出数150人以上を達成することができたが、200人以上を達成することができなかった。	・図書委員会で図書館の利用についてさらに啓発活動をしていくことで、多くの生徒に利用してもらえるようにする。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

P T A 活動	P T A 活動の充実	ホームページやSNS、「PTA便り」等を通して、旬な情報を伝える。	A	ホームページは毎日更新し、Facebookと合わせて、生徒の活動の様子を発信できた。毎月発行の「PTA便り」やマチコミ等を通じて、保護者に必要な情報を伝えることができた。	・ホームページやFacebookを使って、より多くの人に本校の活動が伝わるよう、工夫した情報発信を行いたい。
		PTA総会等、学校行事への保護者の出席率を向上させる。	B	PTA総会は書面開催であったが、体育祭や文化祭は保護者に観覧してもらうことができた。生徒・PTA合同草刈りや文化祭バザーなども実施でき、保護者の来校の機会は増加した。	・開催が可能な学校行事については、できるだけ多くの保護者が参加できるよう、リモート等も活用したい。
事務	教育行政職員としての適切な業務の遂行	光熱水費・消耗品費の節約を啓発するとともに、計画的で効果的な予算執行をする。文具類等のリサイクルの推進に努める。	B	光熱水費の節約や文房具類のリサイクル推進の啓発とともに、計画的な予算執行を行うことができた。	・教職員だけでなく、生徒も含めた学校の使用者全員で節約の推進に努めたい。
		迅速かつ適正な事務処理をする。		事務処理について、遅滞なく法令等に基づき適正な事務処理を行うことができた。	・ICT機器の有効活用を含め、更なる事務処理の迅速化を図りたい。
	環境整備と安全管理	定期的な校内巡視により、不良箇所の早期発見・早期対応に努め、安全確保に努めるとともに施設の長寿命化を図る。屋外環境の保全と美化に努める。	B	定期的な校内巡視により、不良箇所の早期発見と安全対策を行うことができた。	・一時的な安全対策から、積極的な不良箇所の修繕に努めていきたい。
地域活動	地域と連携した取組	地域行事等への参加、年5回以上を目指す。 A：10回以上 B：7回以上 C：4回以上 D：1回以上 E：不参加	A	地域行事等に15回以上参加するなど、地域と連携した活動を積極的に行うことができた。	・来年度も地域の方々と連携しながら、地域活動等に積極的に参加し、生徒の成長と地域活性化のシナジーを目指したい。
	生徒の自主的な活動の充実	地域活性化に関するコンクール等へ積極的に応募する。 A：5回以上 B：3回以上 C：2回 D：1回 E：不参加	A	「第4回ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル」をはじめ、各種コンクール等に7回応募するなど、生徒の積極的な活動が見られた。	・生徒の興味・関心のある分野のコンクール等を紹介するなど、生徒の自主的な活動をサポートできるようにしていきたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。